

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城北中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎学力のばらつきや応用力不足、自主学習の定着が課題。 <指導上の課題> 個別指導の難しさ、学習成果の可視化不足。	<学習上の向上策> AI活用等により個別最適な学びを促進し、いつでも疑問を問える環境を整備。単元テストを充実させ、定着度の確認の頻度を上げる。【教科毎に適宜】 <指導上の向上策> 学習データを分析し、個別指導を確立。探究学習や実験を増やし、応用力を強化。ミラインド等で自主学習環境を整備。【毎朝】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 論理的思考の弱さ、表現力の不足、説明力の未熟さ。 <指導上の課題> 探究型学習の不足、討論・発表の機会減、実社会との結びつき不足。	<学習上の向上策> PBLを導入し、問題解決力を育成。記述式問題の演習を強化し、論理的思考を伸ばす。討論の場を増やし、表現力を向上。【教科毎に適宜】 <指導上の向上策> 学校行事等を活かして学びの実感を強化。協働学習を促進し、思考の深化を支援。探究型学習を継続し、主体的な学びを支援。【学校行事・総合】

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現			

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)		
知識・技能	【国語】漢字や語彙に関する問いに関しては、全国・県平均と同等、もしくは平均を上回っている。 ⇒言語に関する基礎基本はおおそ定着しているといえる。 【数学】基本的に全国・県平均を下回っており、特に文字式の問いや度数分布に関する問いについては、平均を15ポイント以上下回っている。 ⇒割合などの小学校の既習事項が未定着の可能性が考えられるとともに、文字などの形で表される概念的なものについて、十分に理解が深まっていないと考えられる。		
思考・判断・表現	【国語】論理的に自分の考えを相手に伝える問いについて、全国・県平均を15ポイント以上下回っている。 ⇒自分の考えを相手に伝える力、論理的思考力に大きな課題があると考えられる。 【数学】数学的な表現を用いた説明や、証明に関する問いについて、全国・県平均を10ポイント以上下回っている。 ⇒数学的に説明する力、論理的思考力に課題があると考えられる。 【共通】 ⇒論理的に思考し、それを表現する力に課題があると考えられる。		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)		
知識・技能			
思考・判断・表現			

③	評価(※)	中間期報告	中間期見直し
		学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	・プロンプト作成の補助付き生成AIを、授業へ導入。使い方などの研修を実施した。 ・単元テストの実施による、定着度の向上。 ・ICTを活用した、自主学習環境の整備。 ・校内研究授業や、校内研修による授業改善。	変更なし
思考・判断・表現	B	・各教科の授業や総合的な学習の時間、特別活動における教科横断的にも考える授業の計画・実施。 ・生徒の主体性を育む教育活動の研修や実践。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)